

<実施例5>SDGs を学ぶ日本語プロジェクト(プログラムD)

報告者:五十嵐恵美(愛知県立御津あおば高等学校)

実施校の制度 課程:全日制 普通科(国際類型、普通類型) 昼間定時制 普通科(普通類型、日本語類型)
 単位履修の仕組み:単位制
 対象生徒:1年次 タイプB(滞日期間3年)
 実施形態:一斉授業、18人
 主たるプログラム:プログラムD
 実施した科目:「特別の教育課程」による日本語指導科目「日本語IB」(2単位)
 担当者:日本語指導担当教員/外国人生徒教育支援員/日本語教育支援員

5.1 プログラム編成の考え方

(1)SDGs をテーマに日本語で探究する力を高める

対象の生徒(タイプB)は、日常的な生活においては日本語が問題になることはなくなりつつあり、教科等の学習への参加や社会的問題に対処するための日本語の力を高める段階にある。そのためには、情報を批判的に読み解き、目的に応じて取舍選択したり処理したりことや、多様なメディア利用して説得的に伝えるといったメディアリテラシーの力が必要になる。また、キャリア形成・発達の汎用的な力でもある他者理解や課題発見・計画立案の力なども求められる。加えて、卒業後の社会参画に向け、自身がクラス社会の問題に関心を持ち、その解決のために行動しようという当事者としての意識の形成も視野にいれて本プログラムを開発した。

具体的には、SDGs(持続可能な開発目標)をテーマに、日本語プロジェクト(プログラムタイプD)を実施することにした。各テーマに関し、日本語で情報を収集し、情報を整理して問題の所在を明確化した上で、解決方法を検討する活動で構成する。このプログラムによる学習を通じて、日本語で思考・判断・表現する力に加え、社会を変えるために行動をすることに価値を見出してほしいと期待する。

実施校の外国人生徒等の受入状況・日本語指導

本校は全日制(国際類型、普通類型)と昼間定時制課程(普通類型、日本語類型)を有する単位制の高等学校で、「Diversity 多様性」「Inclusive 包括性」「Global 国際性」「Sustainable 持続可能性」をコンセプトとして、様々な特色ある教育活動を展開している。

本校生徒の特徴として、入学試験に「外国人生徒選抜」を実施しており、全校生徒数の28%程度が外国にルーツのある生徒であるということがあげられる。また生徒の母語も9言語と多岐にわたっている。来日時期、滞日年数、母語の力も様々であるため、育みたい「ことばの力」は同様であるが、身につけさせたい「日本語力」に関しては「個別の指導計画」を作り、生徒個々に目標を設定している。

全日制では、「特別の教育課程」として日本語指導を実施しており、各学年で、次の科目を開設している。

1年次:「日本語IJ」「日本語IA」「日本語IB」

2年次:「日本語IIJ」「日本語IIA」「日本語IIB」

3年次:「日本語IIIJ」「日本語IIIA」「日本語IIIB」

(各科目が育成を目指す日本語の力は、次の(2)育みたい「ことばの力」を参照のこと)

加えて、各学年で放課後に「日本語タイム」として、単位分の「特別の教育課程」による日本語指導を行っている。上記科目については、昼間定時制の生徒も履修することが可能である。

定時制では、「特別の教育課程」として、教科に関する日本語を学ぶ科目を開設している。

1年次:「歴史の日本語」「数学の日本語」

2年次:「地理の日本語」「英語の日本語」

(2) 育みたい「ことばの力」とプログラムの組み合わせ（卒業までの3年間）

実施校では、日本語の授業を「日本語を使って自己実現を行う場」として位置づけ、以下の日本語プログラムを「特別の教育課程」として設定している。タイプB生徒の場合は、中学校の途中で来日している生徒が多いため、日本語に関しては、初期段階の日本語学習を経験しており、日常的な高等でのコミュニケーションの力は有すると考えられる。また、出身国・地域で、小学校卒業程度の学習を経験していると想定され、母語・教科学習については、年齢相当とはいかないまでも、一定の基礎的な力と思考する力を有すると考えらる。そこで、次のようなプログラムで構成する授業を履修することで、力を高められるようにしている。

- 【1年次】「日本語ⅠJ」（プログラムA、B）では、学校生活の場面に文型を入れた学習を通して、基礎的な文型や語彙を学ぶ。「日本語ⅠA」（プログラムC）では、読む、聴くの学習を通して、教科学習に必要な文型や語彙を学ぶ。また、教科を学ぶ際の質問のパターンや答え方を習得する。「日本語ⅠB」（プログラムD）では、課題解決型学習を通して、社会を批判的に読み解き、その問題解決のために日本語で働きかけ、行動する方法を学ぶ。
- 【2年次】「日本語ⅡA」「日本語ⅡB」（1年次同一科目の中級版）で、技能毎の力を高めるとともに、その力を、実際に運用する力をプロジェクトにおける探究型の活動で高めていく。
- 【3年次】「日本語ⅢA」「日本語ⅢB」（2年次同一科目の上級版）で、卒業後の進路を見据え、社会参加において求められる、情報を批判的に理解し、課題達成・問題解決のために働きけるためのことばの力を育む。

＜タイプB生徒の日本語学習の全体像：日本語プログラムの組み合わせ＞

	1年	2年	3年
プログラムA「生活のための日本語」	→		
プログラムB「日本語基礎」	→		
プログラムC「技能別日本語」	→		→
プログラムD「日本語プロジェクト」	→	→	

(3) 外国人生徒等の教育・支援活動（学校全体の取り組み）

※実施校は、＜実施事例3＞と同じ高等学校であり、(3)は同じ内容

日本語指導の他、教科学習支援として、1年次には必修科目の取り出し授業、2年次には学校設定科目の取り出し指導を実施している。その他、日本語の授業、教科の取り出し授業、総合的な学習の授業に、母語による支援を行っている。キャリア支援は、外国人生徒等のみを対象としたものではないが、かれらの進路を想定したゲストを招くなど工夫をして実施している。

＜卒業までの指導・支援の全体＞

	科目(単位)／具体的な支援内容
日本語指導	特別の教育課程としての日本語指導 ①放課後 1～3年「日本語タイム」日本語能力試験対策（1単位）

	②授業時間内(各科目2単位) 1年次:「日本語ⅠJ」「日本語ⅠA」「日本語ⅠB」 2年次:「日本語ⅡJ」「日本語ⅡA」「日本語ⅡB」 3年次:「日本語ⅢJ」「日本語ⅢA」「日本語ⅢB」
教科学習支援	【全日制】1年 必履修科目の取り出し授業 2年 学校設定科目「理系国語」の取り出し授業 【昼間定時制】1年 特別の教育課程「歴史の日本語」「数学の日本語」 2年 特別の教育課程「地理の日本語」「英語の日本語」 やさしい日本語で各教科を学ぶ。
母語支援	日本語授業、取り出し授業、「総合的な探究の時間」での通訳 面談の通訳 保護者への通知の翻訳 「世界を知ろう 発表会」(ルーツ国の紹介)
キャリア支援	1年次 ゲストスピーカー講演 2年次 職業体験
その他	部活動への参加支援 日本語スピーチコンテスト出場の支援

5.2 実施した日本語プログラム 授業名「日本語ⅠB」

SDGsの17の目標から、生徒の関心や出身国・地域でも問題となっている13の目標を選択し、テーマとして設定した。各テーマについて、6時間程度でユニット化し、配置している。

各ユニットの活動を「テーマについて調べて話し合う→問題の解決方法について話し合い・解決のための活動計画を立案する→自身の解決方法を発表し意見交換をする。」という流れで構成した。

各ユニットで、日本語の目標として、テーマに関連する語彙と表現を知り、それらを積極鄭に利用して話し合いやプレゼンテーションを行うこと。また、プレゼンテーションのスキルとして、聞き手を意識して働きかけることや、スライドを有効に活用して説明をすることを設定した。

① 目標

日本語で得た情報をもとに、社会を批判的に読み解き、SDGsの諸問題について自身との関わりから理解を深め、その問題解決のために日本語で働きかけ、社会に変化を促す行動ができるようになる。

②指導計画

1 科目名・ 単位数(時間 数)	日本語ⅠB 2単位(70時間)		
2 対象生徒 18人	滞日歴:6か月～5年。全日生徒8名、定時制10名の合同授業。 日本語の力:日本語能力試験N5レベルから、日常会話は問題ないレベルまで様々な日本語力の生徒が在籍している。 母語の力:日常会話は問題ないレベルの生徒が多い。 教科等の力:母語の支援があれば在籍学級の授業に参加できる生徒から、基礎学力が身につけていない生徒まで様々な生徒が在籍している。		
3 履修学年	1年		
4 目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	SDGsの目標や関連する諸問題に関する日本語の語彙	SDGsの諸問題に関する情報を批判的に読み解き、問	SDGsの諸問題の解決について日本語で伝え、意見交

	と表現を知り、その解決の必要性について理解したり、計画したことを発表したりすることができる。	題について話し合い、他者の意見を参考にしながら解決のために自身が実施できる活動を具体的に構想し、計画を立て、聞き手を意識して伝えることができる。	換することに積極的に取り組み、社会の変化に向けて行動することに価値を見出すことができる。
5 プログラムのタイプ	()A(生活のための日本語) ()B(基礎日本語) (○)C(技能別日本語) (◎)D(日本語プロジェクト) 主なプログラム:◎ 接收するプログラム:○		
6 主なリソース	外国人生徒教育支援員(生徒の母語で支援)と日本語教育支援員(やさしい日本語で支援)が授業に入る。また、タブレットを使い、情報収集や翻訳を行いながら授業をする。		
7 指導計画 トピック・内容／主な活動／語彙・表現など ※			
第1～2時 ユニット1 (1単位)	プレイスメントテスト(受講全生徒に行う) ① 日本語能力試験、市販日本語教材から引用した自作日本語テスト(N5～N4 相当) ② 「外国人生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA」の「書く」		
第3～4時 ユニット2 (1単位)	SDGsについて、基本的な内容について知る ・SDGsとはなにか。・SDGsについて考えることがなぜ重要か。 【語彙・表現】 SDGs 持続可能 開発目標 国連 問題解決 貧困・飢餓等(各テーマ) ～を目指す、～に取り組む、～で構成される		
第5～10時 ユニット3 (6単位)	SDGsテーマ: 貧困をなくそう ・貧困の現状とその原因を知る。 ・身の回りにある貧困を調べる。 【語彙・表現】 SDGs、持続可能、開発、目標 「 <u>貧困とは1日1ドル90セントで暮らす人のことです</u> 」「 <u>2030年までに達成する</u> 」		
第11～16時 ユニット4 (6単位)	SDGsテーマ: 飢餓をゼロに ・飢餓の現状とその原因を知る。 ・日本や母国の飢餓について調べる。 【語彙・表現】 ～以上／以下、割合、資源 「 <u>世界で6人に1人の子どもが貧困だ</u> 」「 <u>アフリカの子で5歳以上になれるのは1000人のうち71人だ</u> 」		
第17～22時 ユニット5 (6単位)	SDGsテーマ: ジェンダー平等を実現しよう。 ・世界のジェンダー格差について知り、その原因を考える。 ・身近なジェンダー格差について調べて発表する。 【語彙・表現】 格差、指数、男女、妊娠、出産		

	「ジェンダーギャップ指数が高い <u>ほど</u> 平等だ」「男の人は女の人より働き <u>すぎて</u> 死ぬ人が多い」
第 23～28 時 ユニット6 (6単位)	SDGsテーマ: エネルギーをみんなに ・エネルギーの偏りによる不平等を知り、公正や視野を持つ。 ・クリーンエネルギーについて調べて発表する。 【語彙・表現】 電力、値段、安定的 「クリーンエネルギーは使っても減ら <u>ず</u> 、二酸化炭素を排出しない」
第 29～34 時 ユニット7 (6単位)	SDGsテーマ: 住み続けられるまちづくりを ・なぜ「住み続けられるまち」にするのか考える。 ・今住む街について、改善点を提案する。 【語彙・表現】 つづけられる、人口集中、地域、災害、 「鍵を持ったひとだけが、ごみを捨て <u>られる</u> 」「仕事がない <u>ために</u> 住み続けられない」
第 35～40 時 ユニット8 (6単位)	SDGsテーマ: 働きがいも経済成長も ・身近な人にインタビューをして、「働くこと」「仕事」について考える。 ・自分の仕事についていくつかの選択肢を持つ。 【語彙・表現】 免許、資格、働きがい 「小さい子どもがお金 <u>のために</u> 働か <u>されている</u> 」「仕事も通学も <u>せず</u> 遊んでいる」
第 41～46 時 ユニット9 (6単位)	SDGsテーマ: 質の高い教育をみんなに ★ ・質の高い教育とは何かを考える。 ・御津あおば高校で質の高い教育を受けるにはどうしたらよいかを考え、発表する。 【語彙・表現】 公平、質の高い／低い、公平、知識、技能、安全 「質の高い教育を受け <u>られるように</u> する」「こどもはみな学校へ行き、勉強する <u>必要がある</u> 」
第 47～52 時 ユニット 10 (6単位)	SDGsテーマ: 人や国の不平等をなくそう ・世界人権宣言(谷川俊太郎訳)を読み、平等とは何かを考える。 ・身の回りの不平等を見つけ、改善策を発表する。 【語彙・表現】 権利、平等、かけがえのない、制限 「人はみんな平等で <u>なければなりません</u> 」「性別で判断しては <u>いけません</u> 」「国籍や言語で差別される <u>べきではありません</u> 」
第 53～58 時 ユニット11 (6単位)	SDGsテーマ: 産業と技術革新の基盤をつくろう ・技術革新とは何かを知る。 ・新しい技術革新を考えて発表する。 【語彙・表現】 基盤、整備、インフラ、イノベーション

	「障害者の人 <u>だけでなく</u> 、 <u>普通の人にもやさしい街をつくる</u> 」
第 59～64 時 ユニット12 (6単位)	SDGsテーマ:海の豊かさ、陸の豊かさを守ろう ・海洋汚染や森林破壊の原因について考える。 ・学校でできる環境保護の方法を考える。 【語彙・表現】 不足、栄養、絶滅 「 <u>絶滅が心配されている生物を保護する</u> 」
第 65～70 時 ユニット13 (6単位)	SDGsテーマ:平和と公正をすべての人に ・自分が考える「平和と公正な社会」について発表する。 【語彙・表現】 暴力、法律、虐待、搾取 「 <u>奪われた財産が返されたり</u> 、 <u>元に戻されたりするようにする</u> 」
8 評価方法	授業内での発言、ワークシート、相互評価表、発表原稿

※語彙・表現に加えて、プレゼンテーションスキルとして、以下を意識的に行うように支援する。

プレゼンテーションスキル	具体的な方法	該当ユニット
・内容構成を分かりやすく伝える	・順次性を表す表現を使う ・全体と部分、主張と根拠、具体例とまとめなどの関係が分かる表現を使う	全ユニット
・聞き手の関心を引き出す・興味を持たせる	・問いかける ・聞き手の経験に関連付ける	3、4、5、 6、7、8
・立場を明確にして意見を言う	・どのような立場、場合、条件等で、意見を言っているかを示す。	9、10、1 1、12、13
・資料スライドを効果的に利用してプレゼンテーションを行う	・図表に番号を振り、発表時にも番号をいう ・スライドの該当箇所を指し示す ・スライドの文字の大きさ・色に工夫を凝らす ・アニメーション機能を利用し、発表内容にシンクロさせて提示する。	全ユニット

5.3 授業実践例

(1) 学習指導計画 ユニット9「質の高い教育をみんなに」(★印)

①目標

知識及び技能：「4 質の高い教育をみんなに」に関する語彙や概念を理解する。

思考力・表現力・判断力：本校の教育を批判的に検証し、問題解決について日本語で話したり書いたりすることができる。

学びに向かう力・人間性力等：他者の意見を聞いて、積極的に自分の意見に反映させることができる。

②学習指導計画：50分×6コマ

	時間	生徒の活動	支援・指導のポイント 教科等
導 寺 1	5	本ユニットの目標を確認する 「質の高い教育とはどのような教育か」	・何が問題で何を考えるのかをイメージしやすいように、自身の所属校の問題として課

展開			「御津あおば高校で質の高い教育を受けるために、先生・生徒はどうしたらよいか」	題を設定する。	
	33	Unicef SDGsクラブ動画を視聴し、目標について知る ・動画を視聴し、気づいたことについて話し合う。 ・ワークシートを利用し、関連する語・表現の意味を確認する。 <語彙> 質の高い／低い、公平、知識、技能、安全		・「4.質の高い教育をみんなに／SDGsクラブ」(日本ユニセフ協会・ユニセフ日本委員会) https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/4-education/ ・日本語字幕・英語ナレーションで理解を促し、必要に応じて母語支援員の支援を受けたり、翻訳アプリを利用する。	
	12	次の問題提起について考え、話し合う 「なぜ教育が必要なのか」 「どうして学校へ行かなければならないのか」 「なぜ学校へ行けない子がいるのか」 表現: ・質の高い教育を受けられるようにするために～ ・こどもはみな学校へ行き、勉強する必要がある		・生徒から出てきた意見を整理して示す。板書等で学んだ語彙、利用してほしい表現を示す。 ・各国の教育環境に配慮しながら意見を考えさせる。 ・話し合いのルールとして、お互いの意見を尊重し否定しないことを確認する。	
	2, 3 時間目	5	日本の学校の説明を聞き、問題点について知る。		日本の学校の特徴を、プラス面とマイナス面に分けて整理して示す。
		25	「御津あおば高校で質の高い教育を受けるにはどうしたらよいか」話し合う。 (1)生徒はどうしたらよいか (2)先生、学校はどうしたらよいか		・生徒と教員、それぞれの立場で、どのような改善の可能性があるか検討する。 ・話し合いの手がかりとして具体例を複数あげる。
		70	発表原稿のモデルから、内容の構成について知り、PPTを使って原稿を作る。 ・プレゼンの予行演習をする。		・対話で考えを引き出し、よりふさわしい語彙・表現を紹介する。それをメモし、原稿を作るように、段階的に進める。 ・クラスメイトと相談し、支援員のサポートを受けて原稿作成・発表練習をする。
4, 5, 6 時間目	145	「質の高い教育」のための改善点を発表する。 発表を聞く際は、他者評価表を記入する。 聞き手は、プレゼンの仕方の評価に加え、次の2点を意識して聞く。 自分にはないアイデア 「質の高い教育」を実現できるか ・評価シートをもとに、互いの発表について感想を述べ合う。		・評価シートを準備し、プレゼンの良い点と直したほうがよい点をメモさせる。 ・相互の意見・考えで、参考になる、質の高い教育のために効果があると思ったものをメモさせる。	
	5	振り返り ・SDGsの目標の重要性や、問題解決について意見をまとめ、学んだことを振り返る。		・このユニットで学んだことを、ワークシートやスライドなどで、確認しながら振り返る。 ・今後も関心をもって調べたいことを挙げる等させ、継続的な学習を意識化させる。	
まとめ					

(2) 授業の実際

① 生徒が作成した発表用のスライド

生徒の発表原稿

生徒が
た

- ② 学校の規則をしっかりと守る
- ②、全体生徒(日本人にも、外国人にも)は互い助けたいの雰囲気をもつ、差別をしない。
- ③、学習に対して、自分の最大限の努力をつけて、他者に助けたい、負けたくないの気持ちを持つ。

生徒の発表原稿

先生、学校は
どうしたら
いいか

先生はどうしたらよいか

- ①、全員の生徒に対して、できるだけ平等・公平に対応する、誰でも勉強られるの勉強環境が作るとようことを求める。
- ②、勉強したい学生に対して、もっと多くの補習や試験を提供し、充実な勉強内容を提供する。

生徒はどうしたらよいか

- ①全員の生徒に対して、できるだけ平等・公平に対応する、だれでも勉強られるの勉強環境が作るとようことを求める。
- ②勉強したい学生に対して、もっと多くの補習や試験を提供し、充実な勉強内容を提供する。

・学校はどうしたらよいか

- ①古いものを整理し、壊れたものを修理し、又は新しいものに入れ替える。
- ②給食などのサービスを提供する。

② 授業で利用したスライド資料(例)

授業資料

ターゲット 2

2030年までに、**すべての子どもが**、幼稚園や保育園に通い、小学校の準備ができるようにする。



2030年までに、すべての子どもが、幼稚園や保育園に通い、小学校の準備ができるようにする。

授業資料

どうして 学校へ いけないのか

1. 女の子は 学校へ行くな といわれる。
2. 家族のために 働かなければいけない。
3. 学校がない。壊された。

どうして 学校へ いけないのか

1. 女の子は 学校へ行くな といわれる。
2. 家族のために 働かなければいけない。
3. 学校がない。壊された。

授業資料

にほん

きょういく

日本の 教育の もんだい

- ほいくえん ようちえん こ
1. 保育園、幼稚園に いけない子がいる。
 2. 先生が 忙しすぎる。
 3. いじめが ある。

日本の 教育の もんだい

1. 保育園、幼稚園に いけない子がいる。
2. 先生が 忙しすぎる。
3. いじめが ある。